

JICAベトナム事務所 月報

第192号（2026年7月号）
2026年8月18日発行

本月報に関するご意見・ご要望は
vt_oso_rep@jica.go.jp までお送り下さい

Website（日・越・英）：
<https://www.jica.go.jp/overseas/vietnam/index.html>

Facebook（越）：
<https://www.facebook.com/jicavietnam/>

発行：JICA ベトナム事務所広報班

目次

- ベトナムの脱炭素を加速！ 3
農業環境省気候変動局が民間企業向け実践型研修を開催
- 福岡県環境部とフエ市建設局による草の根技術協力事業
～最終現地活動とクロージングミーティングを実施～ 4
- ダナン市で乳幼児の補完食(離乳食)指導に関する省レベル
職員向け研修を開催 5
- AI時代の日本語教育を考える－ 6
JICA 日本語教育分科会 2026 を開催
- DXを活用した地すべり災害対策ソリューションに関する技術
交流セミナーを開催 7
- 「ウイルス性肝炎予防対策強化プロジェクト」 8
ベトナム7省・市において5歳未満児のB型肝炎疫学調査
を実施
- 「ウイルス性肝炎予防対策強化プロジェクト」 9
ハノイで「ウイルス性肝炎の予防・管理に関する科学
ワークショップ」を開催
- JICA 海外協力隊員の皆さん、ベトナムへようこそ！ 10
- ベトナム・日本の専門交流 11
一幼児の健やかな成長を支える知見を共有－
- ベトナム証券市場の透明性向上に向けて 12
JICA 小島一伸専門家がメディア取材に対応
- JICA・カントー大学共同プロジェクトによる環境配慮型アヒル 13
飼育モデルをカントーテレビが特集 田中祐志チーフアドバイ
ザーが出演

ベトナムの脱炭素を加速！ 農業環境省気候変動局が民間企業向け実践型研修を開催



JICA 専門家が参加者に講義を実施

技術協力「SIM-NDC プロジェクト*」の一環として鋼の 3 分野の企業を対象とした研修がホーチミン市(6 月 25～26 日)およびハノイ市(6 月 29～30 日)にて開催されました。

本プロジェクトはベトナム政府が国際的な枠組みのもとで掲げる温室効果ガス(GHG)排出削減目標「自国が決定する貢献(NDC)」の達成に向けた取り組みを推進するものです。

本研修では排出量取引制度(ETS)の導入に不可欠となる事業所レベルでの GHG 排出量の正確な算定・報告に向けて、2026 年中に稼働開始を予定しているオンライン報告システムの利用方法を紹介するとともに、排出削減計画の策定方法など、制度対応に必要な知識と実務スキルの習得を図りました。

本研修を通じて、企業の GHG 排出管理能力の向上と制度運用を担う人材の育成が期待されます。

JICA は今後も官民の多様なパートナーと連携しながら、ベトナムにおける脱炭素社会の実現に向けた協力を推進していきます。

*パリ協定に係る「自国が決定する貢献(NDC)」実施・モニタリング支援プロジェクト(SIM-NDC)

福岡県環境部とフエ市建設局による草の根技術協力事業 ～最終現地活動とクロージングミーティングを実施～

2026年6月4日、2023年より3年間にわたり、福岡県環境部とフエ市建設局の間で実施してきた草の根技術協力事業「フエ市における適正廃棄物処理工程構築支援事業」の最終現地活動およびクロージングミーティングが行われました。

本事業は、フエ市フォンビン福岡方式ゴミ埋立処分場が適切に運用・維持管理されるための技術的な基盤整備を目的に、福岡県の技術を活かして進められてきました。処分場には「福岡方式（準好気性埋立方式）」が導入され、あわせて維持管理マニュアルも作成されています。

現在、当処分場は建設の最終段階まで進んでおり、竣工後は、福岡方式と維持管理マニュアルの有効活用を通じて、フエ市のみならずベトナムの環境保全への貢献が期待されています。



フォンビン埋立処分場現地視察

ダナン市で乳幼児の補完食(離乳食)指導に関する省レベル職員向け研修を開催



出席者による記念撮影

2026年7月2～3日ダナン市において、国立栄養研究所主催で各省疾病対策センター(CDC)の栄養担当者を対象とした研修プログラムが開催され、全国から90人の関係職員が出席しました。

本研修は、株式会社アサヒ食品グループが2025年まで実施したJICA民間連携事業「最初の1000日における母子保健改善ビジネス化実証事業」の成果を踏まえ、ベトナム国立栄養研究所が新たに策定した「ベトナム版離乳食ガイドライン」の普及を目的としています。

本ガイドラインには、日本の離乳食に関する実践例や、乳幼児の機能発達段階に応じた調理法などの知見が体系的に盛り込まれており、省レベルおよびコミュニティレベルの職員が現場で直ちに活用できる実践的な内容となっています。

また、本ガイドラインは、ベトナム政府が推進する「持続可能な貧困削減国家目標プログラム」における栄養改善の取組とも連携しており、本研修を通じて現地医療従事者の知識と技術の向上を図りました。

JICAは今後も、母子保健および栄養分野における産学官連携の取組を通じ、ベトナムの人々の健康と栄養状態の改善に貢献していきます。

AI 時代の日本語教育を考える – JICA 日本語教育分科会 2026 を開催

2026 年 7 月 9～10 日にかけて、ダナン大学外国語大学において「JICA 日本語教育分科会 2026」が開催されました。ベトナムの大学で日本語教育に携わる教員と JICA 海外協力隊員が参加し、「日本語教育における AI 活用」をテーマに意見交換を行いました。

分科会には、JICA 海外協力隊を受け入れる大学 9 校の教員と隊員 8 名が参加し、授業準備や採点、学習支援における AI 活用の可能性や課題について議論しました。また、AI を活用した会話練習や作文授業のワークショップを通じて、実践的な活用方法を体験しました。

本分科会は、ベトナム各地で活動する日本語教員同士の交流と協力ネットワーク強化の貴重な機会となりました。参加者は、AI は有効な支援ツールである一方、学習者の成長を支え、人と人とのつながりを築く教師の役割は不可欠であるとの認識を共有しました。

JICA は今後も、テクノロジーを効果的に活用しながら、ベトナムにおける日本語教育のさらなる発展に貢献していきます。



活発な意見交換

DX を活用した地すべり災害対策ソリューションに関する技術交流セミナーを開催



ラオカイ省における実証現場

JICA、奥山ボーリング株式会社（秋田県）、株式会社オサシ・テクノス（高知県）は、2025 年 5 月より「ベトナム国における DX を活用した地すべり災害予防ソリューションに関するビジネス化実証事業」を実施しています。

本事業では、衛星データやドローンによる地すべり診断、監視・早期警戒システム、簡易水抜き工法を組み合わせた防災ソリューションの実証を進めています。

その一環として、2026 年 7 月 17 日にダナン工科大学と共同で技術交流セミナーを開催し、DX を活用した地すべり対策技術や実証成果を共有しました。また、ハザードマップ作成や AI による地すべりリスク評価など最新の研究成果を紹介し、技術導入や産学連携について活発な意見交換が行われました。

両社は今後、本事業の成果を活用し、ベトナムでの地すべり災害予防ソリューションの普及・事業展開を通じて、災害被害の軽減に貢献していく予定です。

「ウイルス性肝炎予防対策強化プロジェクト」 ベトナム 7 省・市において 5 歳未満児の B 型肝炎疫学調査 を実施

JICA とベトナム保健省が共同で実施する「ウイルス性肝炎予防対策強化プロジェクト(VHEP)」の一環として、5 歳未満児における B 型肝炎表面抗原(HBsAg)の保有率を推計するため、全国 7 省・市*で疫学調査が実施されています。

本調査は、B 型肝炎ワクチン接種プログラムおよび母子感染予防対策の効果を科学的に評価する上で重要な役割を果たします。得られた調査結果は、今後の保健政策の立案に向けたエビデンスを提供するとともに、2030 年までのウイルス性肝炎排除に向けたベトナムの取り組みへ協力するものです。

ソンラ省では、同省疾病管理センター(CDC)が 7 月 20 日から 8 月 1 日にかけて、本調査を実施しています。医療従事者が、対象となる子どもたちから血液検体を採取するとともに、その家族への聞き取り調査を行い、正確かつ信頼性の高いデータの収集に努めています。

JICA は今後も、ベトナム保健省および地域の関係機関と緊密に連携し、エビデンスに基づく肝炎対策の強化を支援するとともに、すべての子どもたちが肝炎の負担から解放され、健やかに成長できる未来の実現に貢献してまいります。

* ソンラ省、バクニン省、クアンチ省、ラムドン省、クアンガイ省、アンザン省、ホーチミン市

詳細は、ソンラ CDC ウェブサイトをご確認ください。

[ソンラ CDC ウェブサイト](#)



調査の様子

「ウイルス性肝炎予防対策強化プロジェクト」 ハノイで「ウイルス性肝炎の予防・管理に関する科学 ワークショップ」を開催



ワークショップの様子

「ウイルス性肝炎予防対策強化プロジェクト（VHEP）」は2026年7月23日、ベトナム保健省および国立熱帯病病院（NHTD）と共同で、「ウイルス性肝炎の予防・管理に関する科学ワークショップ」をハノイで開催しました。

「世界肝炎デー」（7月28日）に先立ち開催された同ワークショップには、ベトナム保健省のグエン・ティ・リエン・フオン副大臣をはじめ、世界保健機関（WHO）、米国疾病予防管理センター（CDC）、在ベトナム日本国大使館、JICA、医療機関や研究機関の代表者など、300人を超える関係者が参加しました。

ワークショップでは、ウイルス性肝炎の最新の診断・治療ガイドラインに加え、地域レベルにおける肝炎診療体制の強化策や、革新的な診断技術の活用について活発な議論が行われました。

また、ウイルス性肝炎を公衆衛生上の脅威として排除するとともに、2030年までの肝がん予防の実現に向けて、政府機関、研究機関、医療機関、国際パートナーによる連携を一層強化していくことの重要性が改めて確認されました。

JICAは今後もベトナム政府および関係機関と緊密に連携し、科学的根拠に基づく持続可能な肝炎対策の推進に協力していく方針です。これを通じて、ウイルス性肝炎の予防・管理体制の強化と、ベトナムにおける肝炎排除目標の達成に貢献していきます。

*同ワークショップに関する保健省の記事とビデオは以下リンクからご覧いただけます。

[記事リンク](#)

[ビデオリンク](#)

JICA 海外協力隊員の皆さん、ベトナムへようこそ！

2026年7月28日、7名の新たなJICA海外協力隊員がベトナムに到着しました。7名は今後、ハノイ、バクニン、ハイフォン、ダナンで活動を開始する予定です。

約2年間の派遣期間中、隊員たちは、青少年活動、幼児教育、日本語教育、陶磁器、番組制作、理学療法、社会・文化人類学など、多様な分野で活動する予定です。

それぞれの専門性を生かした活動を通じて、教育支援や地域社会の発展に貢献するとともに、ベトナムと日本の文化交流の促進や、地域における社会サービスの質の向上にも寄与することが期待されています。

今後の隊員の活動をぜひ応援してください！

ベトナムの皆さまとともに歩む隊員たちの活躍を心より期待しています。



ノイバイ国際空港に到着した隊員たち

ベトナム・日本の専門交流

—幼児の健やかな成長を支える知見を共有—



教員と子供たちの授業中の様子
写真：ブップ・セン・サイン幼稚園

6月下旬、幼児教育分野で活動する JICA 海外協力隊員がハノイ師範大学附属ブップ・セン・サイン幼稚園と協力し、全国各地の幼児教育施設の管理者および教員を対象とした専門交流・研修プログラムを実施しました。

また、ハノイ師範大学の教員も参加し、幼児教育における実践的な経験と学術的な視点を結び付ける貴重な機会となりました。

保育参観、模擬保育、専門的な意見交換を通じて、参加者は、子どもたちが主体的に探究し、体験しながら、遊びや実践的な活動を通して能力を伸ばしていく教育方法について理解を深めました。

子どもたちの健やかな成長を支える学びと交流が行われました。ぜひブップ・セン・サイン幼稚園の投稿をご覧ください、当日の様子をご覧ください！

[Facebook 投稿記事リンク](#)

ベトナム証券市場の透明性向上に向けて JICA 小島一伸専門家がメディア取材に対応

透明性が高く、効率的で国際的に統合された資本市場の構築は、持続的な経済成長を支える重要な基盤の一つです。

JICA は技術協力プロジェクトを通じて、ベトナムの関係機関と緊密に連携し、証券市場の透明性と効率性の向上を支援してきました。

JICA 専門家である小島一伸氏が Mekong ASEAN 新聞のインタビューに応じ、市場の質の向上、投資家の信頼強化、そして国際資金の呼び込みに向けて進められている改革について見解を述べました。

詳細については以下リンクからご覧いただけます。

[Mekong ASEAN 新聞の報道リンク](#)



取材を受ける小島一伸専門家

JICA・カントー大学共同プロジェクトによる環境配慮型 アヒル飼育モデルをカントーテレビが特集 田中祐志チーフアドバイザーが出演

カントーテレビは、Nông Gia 生産組合で実施されているバイオセキュリティを取り入れたアヒル（ムスコビーダック）飼育モデルに関する特集を放映しました。

本モデルは、JICA とカントー大学による技術協力プロジェクト・フェーズ 2 のもとで実施されている「研究モデル 3: 半集約型かつ疾病安全性の高いアヒル飼育モデルの開発」の技術協力を受けて展開されているものです。

本モデルの大きな特徴は、飼育期間を通じて発酵床（バイオベッド）とプロバイオティクスを組み合わせ活用している点にあります。これにより、アヒルの腸内環境の改善や疾病リスクの低減、抗生物質使用量の削減が期待されるほか、畜産物の品質向上や環境保全にも貢献しています。

また、今回の特集では、プロジェクトの田中祐志チーフアドバイザーおよび研究モデル 3 の責任者であるグエン・チョン・グー教授が出演し、モデルのこれまでの成果や今後の普及・展開の可能性について紹介しました。

*カントーテレビのビデオはこちら

<https://www.facebook.com/reel/20920194>



取材を受ける田中祐志チーフアドバイザー

写真: カントーテレビ